

秋の交通安全運動にむけて、高齢者交通事故防止啓発チラシ および自転車用ヘルメットを高知県警察に寄贈

日本損害保険協会 中国・四国支部 高知損保会（会長：作道 信夫：三井住友海上火災保険株式会社 高知支社長）では、秋の交通安全運動（9月21日～30日）に向けて、9月10日に高齢者交通事故防止啓発チラシ3,000部および自転車用ヘルメット3個を高知県警察に寄贈しました。

2024年の県内の交通事故の発生状況は減少傾向にあるものの、死亡事故で高齢者の占める割合は全国平均を大きく上回っており、歩行中の死者数については7割以上が夜間の事故によるものです。

今回寄贈した高齢者交通事故防止啓発チラシには反射材を貼付しており、チラシによる啓発だけでなく、実際に反射材を活用いただき、その効果を実感いただけるように工夫しています。

今回寄贈したヘルメットは、9月20日に、「子どもと高齢者を交通事故から守ろう！」をテーマに開催された「第33回交通安全ひろば」（高知県高知市）で、イベント来場者への景品の一つとして活用されました。日本損害保険協会 高知損保会は、高知県警察と連携して、自転車の「ながら運転」の禁止や自転車乗車時の「ヘルメット着用」などについて、来場者に啓発しました。県内では自転車事故による負傷者の8割近くがヘルメットを未着用とのことであり、イベントとの相乗効果により県民へのヘルメット着用の意識醸成につながることを期待しています。

当支部では、引き続き各県警察や行政機関等と連携しつつ、交通事故死ゼロに向けて、地域住民の交通安全意識の向上を図るよう、交通事故防止啓発を推進して参ります。



啓発チラシ・ヘルメットの寄贈
（左：作道会長、右：黒岩参事官兼交通企画課長）



集合写真（左：作道会長、中：黒岩参事官兼交通企画課長、右：濱川交通企画課次長）



自転車シミュレーターで自転車の交通ルールを学ぶ来場者



高知県警察とともに、来場者に啓発する協会職員



寄贈した自転車用ヘルメットを景品で受け取るご家族